

2018年2月13日

第6回技術経営・イノベーション賞において、 「運転支援システム アイサイト」が科学技術と経済の会会長賞を受賞

SUBARUは、一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)主催の「第6回技術経営・イノベーション賞」において、「運転支援システム アイサイト」に対する取り組みが、「科学技術と経済の会会長賞」を受賞しました。表彰式は、本日2月13日13時30分よりホテル・グランドパレス(東京都千代田区)にて執り行われました。

「技術経営・イノベーション賞」は、日本においてイノベーションを興し、経済成長や産業競争力の強化につなげるための表彰制度です。日本発の優れた新規事業を発掘し、そのプロセスを他の技術者・経営者へ紹介して、広く国内でイノベーションを促進させるため、わが国初の本格的なイノベーション表彰として2012年に創設されました。

SUBARU「運転支援システム アイサイト」は、世界で初めてステレオカメラのみで、自動車だけでなく歩行者、二輪車までも対象としたプリクラッシュブレーキや、全車速追従機能付クルーズコントロール等を実現したシステムです。国土交通省とNASVA*1が実施する予防安全性能アセスメントにおいて、最高評価であるJNCAP*2「予防安全性能評価 ASV++」*3に選定されるなど、第三者機関から高い評価を獲得しています。

*1: National Agency for Automotive Safety & Victims' Aid(独立行政法人 自動車事故対策機構)

*2: Japan New Car Assessment Program

*3: Advanced Safety Vehicle ++ 獲得車種:レガシィ、インプレッサ、フォレスター、WRX S4、レヴォーグ

■第6回技術経営・イノベーション賞「科学技術と経済の会会長賞」

(事業名) 運転支援システム アイサイト

(受賞者) 株式会社SUBARU 代表取締役社長

吉永 泰之

上級プロジェクトゼネラルマネージャー

樋渡 穰

(選考の理由)

四半世紀以上の研究開発から生まれた運転の愉しさと安全性とを両立させるイノベーションである。非常に高い精度を持つステレオカメラ認識技術を自動車製造ラインに流すための困難克服や、300万キロメートルを超える走行実験、試験、ビッグデータの活用で実現したこのシステムは、多くの類似方式の中で、精度やコスト面で優位にあると考えられ、また究極の安全性に向け進化し続けている点が高く評価された。



運転支援システム アイサイト